

医薬保健学域 保健学類 看護学専攻
【授与する学位】学士（看護学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は、高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質 [Quality of Life(QOL)] を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。 保健学類は、保健学における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた高度な医療人としての看護師・保健師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士を養成するとともに、保健学の発展を担う教育研究者を養成する。また、医療人としての社会的使命感を涵養し、現代社会及び将来の保健・医療・福祉における諸課題を探索し解決できるような、総合的で学際的な保健学の能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受け入れに関する基本的考え方（前文）】
保健学類 保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）、学士（保健学）の学位を授与する。	看護学専攻の基本理念は、看護学の学問特性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材を育成することである。看護学専攻では、ディプロマポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーを用いてその体系性や構造を明示する。	保健学類 保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とする。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成である。 保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、診療放射線技術学専攻、医療検査技術学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設ける。 看護学専攻 看護学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、人々が、グローバル化する社会、多様な環境に適応しながら健康的に質の高い生活を送ることを支援する学問である。 看護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習する。さらに、学内及び学外の医療保健及び福祉現場での実習を通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの一員としての責任を学ぶ。また、研究やゼミを通じ、将来の看護科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、看護実践力のある指導者、教育者、研究者となるための基礎も身につける。卒業時には、看護師、保健師*の国家試験受験資格を取得することができる。 *保健師課程は、選択制です。保健師として将来就職を希望する学生（最大40名）で、所定の科目を履修し、その単位を修得した者のみが、卒業時に「保健師国家試験受験資格」を取得できる。
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
保健学類 1.保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。 ・対象となる人を全人的に捉える基本能力を養う。 2.医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 ・根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を養う。 ・地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力を養う（保健師課程） 3.医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。 ・特定の健康問題に対応する実践能力を養う。 ・地域の健康危機管理能力を養う（保健師課程） ・専門的自律と継続的な質の向上能力を養う（保健師課程） 4.専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 ・多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力を養う。 ・地域の健康水準を高める事業化・施策化・社会資源開発・システム化能力を養う（保健師課程） 5.幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。 ・専門職として研鑽し続ける基本能力を養う。 ・個人・家族・集団・地域への継続的支援と協働する能力を養う（保健師課程） 6.英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。 ・ヒューマンケアの基本に関する実践能力を養う。	1. 教育内容 （1）共通教育科目では、看護学を履修するうえで基盤となる人文・社会学や自然科学に関する知識、ならびにデータサイエンスやプレゼンテーションなど基本的なアカデミックスキルズを教育する。 （2）専門基礎科目では、身体および精神の機能と構造、病気の成り立ちと回復の促進について教育する。 （3）専門科目では、看護の原理や対象別・ライフサイクル別の看護について教育する。 （4）保健師教育課程では、ヘルスプロモーションから困難事例まで、地域における多様な健康課題への看護について教育する。 2. 教育方法 （1）学年進行に伴って、看護の対象理解から計画立案、実践能力の獲得のための学修へと深化するよう教育している。 （2）看護職者としての立ち位置のみならず、チーム医療やシステム化などの観点から力動的な視点で教育している。 （3）専門職としての研鑽や自律のために必要な能力の修得を目指して、アクティブラーニングや臨地実習を重視している。 【学修成果の評価】 （1）授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 （2）学士課程での学修成果は、「卒業論文」を含めた修得単位数によって行う。 （3）卒業論文の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。	・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人 ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人 ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献したいと強く願う人 ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人 ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとなる夢を持つ人 【選抜の基本方針】 ■一般選抜 基礎学力に加え、数学・理科及び英語の学力を重視する。 ■KUGS特別入試（学校推薦型選抜） 基礎学力に加え、口述試験で医療人としての適性の評価並びに調査書等の出願書類による総合評価をする。 ■KUGS特別入試（防災・復興人材選抜） 大学入学共通テストにより基礎学力を評価するとともに、口述試験により医療人としての資質や適性及び本学類で実施される防災・復興人材育成への明確な志向等を評価する。 ■帰国生徒選抜 理科と英語の学力に加え、成績証明書（調査書）による総合評価をする。 ■国際バカロレア入試 口述試験により理系能力及び医療人としての適性の評価並びに提出書類（志願理由書）等による総合評価をする。 ■私費外国人留学生入試 学力検査により本学類の修学上に必要な基礎学力を有しているかを評価し、口述試験を通じて、志願者の日本語能力（対人コミュニケーション能力を含む）、英語能力及び本学類で修学することや医療人として職務を遂行することの適格性及び適性を評価する。 【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】 論理的思考力・表現力を身につけるため、文系科目と理系科目の幅広い基礎学力の習得を望む。